

令和4年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：函館地区
- 2 事例報告学校名：函館市立万年橋小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 高橋 吉隆
- 4 キーワード：地域の教育力を生かした特色ある教育活動

1 はじめに

本校は、函館市の中西部に位置し、昭和2年1月13日に創立され、今年度開校96年を迎える歴史と伝統のある学校である。現在、各学年1学級と特別支援学級1学級であり、全校児童137名の規模校であるが、「みんながお互いの顔を知っている」といったよさを生かしながら、教育活動が進められている。

また、校区には電気機械製造、製材、造船、製網、水産加工等、中小各工場が密集しており、近隣各町会が連携した取組を行うなど、児童が地域で生き、学ぶ環境が充実していることが特色である。

2 コミュニティ・スクールを核とした地域学校協働活動の推進

地域に根差し、地域とともにある学校を目指し、平成31年度にコミュニティ・スクールが導入された。地域コーディネーターを窓口、学校運営協議会委員、地域町会、PTA、大学、地域企業の方々から熟議を通してアイデアを出し合い、情報や人材の交流を図りながら、地域全体で児童の健全な成長を保障する取組を行っている。その中のいくつかの主な活動について、次に紹介したい。

(1) 地域町会との連携

校区における町会は歴史があり、本校を卒業した方が多数在住している。その中には児童の祖父母や保護者の方、地域に密着した会社経営をする方もおり、学校への思い入れや愛着が深い。そういったことから、地域町会との連携は非常に重要であるとともに、学校と強いつながりをもって次のような活動が展開されている。

① 踏切等における交通安全指導

毎朝登校時、踏切を渡ってくる児童の安全を見守るため、地域の複数の町会から人員を配置していただいている。見守り活動とともに児童が地域の方々とも顔を合わせ、声を交わすなどのふれあいの場、絆を強める場ともなっている。

② 防犯パトロール

7月と10月に、地域町会から10名ほど学校に集合し、低学年の下校見守りとして、下校方面に分かれ、通学路を随行していただいている。この防犯パトロールは、町会ごとに全市的な取組として例年行なわれている活動である。



防犯パトロール

③ 「こども110ばんのいえ・みせ」ポスターの掲示

地域コーディネーターから地域で掲示可能な事業所やお宅等を紹介いただき、目に付きやすい場所にポスターを貼っていただいている。児童が困ったときには、いつでも大人の目があり、声を掛けることで助けられる体制づくりを行い、地域ぐるみで安心して生活できる環境づくりを行っている。

④ 学習支援活動

長期休業中、町会館において、児童への学習支援を行うための教育大学学生によるボランティア学習会を実施している。児童が自主的に地域で学べるよう、地域コーディネーターを通して町会と大学が連携して行っているもので、中学生が参加できる場も別に設定している。

⑤ 地域指導員参加による放課後子ども教室の実施

函館市子ども未来部で行っている「放課後子ども教室」の事業であり、町会から地域指導員のボランティアが参加して実施している。低学年から高学年まで事前登録した児童が参加することができ、放課後、安心して遊べる児童の居場所づくりに貢献している。この活動は今年度で14年目を迎えている。取組として例年行なわれている活動である。

⑥ 学校施設使用を想定した地域防災訓練の実施

本校は、津波や地震が起きた際の指定緊急避難場所兼指定避難所となっていることから、実際に地域の方が校舎を使った避難訓練を実施することで、地域全体の防災の在り方について検討・改善を図っている。

(2) 地元企業との連携

① 地元企業の魅力を知る出前授業などの実施

世界的シェアを誇る機械を地元企業が生産していること、はたらく自動車を見たり触ったりすることなどの出前授業を通して、地域のリアルを体験し、知ること、実感を伴った学習を行い、地域に誇りや夢をもち、地域や世界で活躍する人材を育成することを目指している。



地元企業の魅力を知る授業

② 学校環境整備の実施

幅跳び用砂場の砂補充や校舎周辺樹木剪定などを通して、児童の教育活動における安全や安心を確保するための環境整備をボランティアで行っていただいている。

(3) 地元教育大学との連携

① 放課後学習サポートの実施

毎週水曜日、定期的に教育大学函館校の学生が本校に来校し、放課後における学習のサポートを実施。児童が楽しみながら、進んで学習する姿が見られるとともに、学生の教員志望への思いが強くなるといった相乗効果も見られる。



放課後学習サポート

② 教員志望学生による授業参観および研究への協力

教員を志望する学生が、自身の研究を深めるため、毎週火曜日に授業を参観したり、実際に授業を行ったりする活動を取り入れることで、学校が後進の育成の場としての機能を果たしている。

3 地域教材、地域人材の活用

函館は1859年、下田とともに開港した古い歴史をもつ町であり、また幕末の戊辰戦争の舞台でもある。また、日本で最初に水道の施設が造られた町でもある。そういった歴史を発達の段階に応じて計画的に、繰り返し学んでいくことで、地域への誇りと愛着をもち、未来を切り拓く人材を育成する。

(1) 函館の歴史を中心に据えた学習展開の工夫

第5学年、第6学年では、教科等横断的な学習により函館や北東北の歴史、人物や文化遺産について事前に学び、自主研修や修学旅行などで実際のもの、こと、ひとに触れる体験を通して、実感を伴った学習を行っている。また、学習したことは事後に端末等を使ってまとめ上げ、全校児童や保護者にプレゼンテーションを実施するなどして発表の場を設け、思考力・判断力・表現力等の育成を図っている。

(2) 縄文文化の継続的学習

函館市においては、第3学年が函館市縄文文化交流センターに出向き、縄文文化について学びを深めており、本校においては修学旅行の行程にもこの函館市縄文文化交流センターを取り入れるなど、縄文文化の継続的学習を行っている。周辺の遺跡群は、令和3年度に「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界文化遺産に登録され、また国宝の中空土偶があることから、縄文文化の価値を見直す絶好の学習の場となっている。



縄文文化の学習

4 おわりに

コミュニティ・スクールを核とした地域学校協働活動および地域教材、地域人材の活用を進めることで、コロナ禍であっても皆で知恵を出し合い、試行を重ねながらも教育活動を行うことができた。その中には、学校を大事にし、児童を慈しむ地域の方々の温かな眼差しがあり、それに応えようとする児童の頑張る姿がある。この地に培われた教育、共育の精神を大事にし、地域と手を携え、地域とともに歩む教育を大事にしていきたいと考える。